

## 資料紹介：平成25年度購入資料について ～吉田初三郎関係資料～

Report on works by Hatsusaburo Yoshida of the Aomori Prefectural Museum new possession

佐藤良宣\*

Yoshinobu Sato

Key words：吉田初三郎

はじめに

青森県立郷土館は、開館以来、青森県に関する資料の収集・保管を行っており、その一環として、県内外に所在する貴重な資料を調査し、必要な資料の購入に努めている。平成23年度は、本県八戸市種差海岸にアトリエを置いていた鳥瞰図絵師吉田初三郎の鳥瞰図を中心とする278点を購入した。これに関しては、当館紀要第36号でそれらの資料目録を示した。また、本年度は鳥瞰図原画を含む吉田初三郎の作品5点を購入した。吉田初三郎は、大正から昭和30年に没するまでの間、各地の名所や都市の鳥瞰図を描いたことで一世を風靡した画家である。平成25年7月24日から9月1日まで開催した企画展『吉田初三郎鳥瞰図展～大正・昭和に描かれた観光パノラマ絵図』ではこれらの資料を展示した。

本稿では、本年度に購入した資料について紹介する。

### 1 八戸市鳥瞰図原画 (1点) 絹本着色 51.0×152.8cm 昭和28 (1953) 年

この原画は昭和28 (1953) 年の製作である。昭和27～29年にかけて描かれた八戸市の鳥瞰図原画は4点あり、そのうち、昭和29年に描かれたもの2点が、八戸市役所・三八五交通株式会社から同年に発行された折図『八戸市』のベースになったと、藤本一美氏は考えている。<sup>(1)</sup>

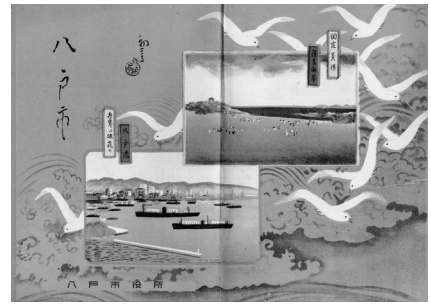
当館蔵の原画と印刷された折図はかなり構図が似ている。両者を比較すると、当館所蔵の原画には、初三郎のアトリエ「潮観荘」が描かれている。昭和28年11月24日、潮観荘は近所からのもらい火で焼失したが、昭和29年発行の折図でも、潮観荘は以前の姿そのままに残されている。しかし、両者の間には、山の描き方のほか、原画では黒で描かれている鉄道引込線が折図では赤になっていること、折図には原画にない赤の点線で鉄道の建設予定が書き加えられていることなどの差異もある。

当館所蔵のこの原画は、初三郎が八戸で当時活動していた書家で造形家でもある宇山博明に贈呈したものである。昭和16年、横浜で暮らしていた宇山は軍隊に招集された際、妻を種差に疎開させ、終戦後の昭和22年、復員した宇山は種差に住むことになる。近所にアトリエを置く初三郎と交流があったという。昭和29年、日本のマグロ漁船である第五福竜丸がビキニ環礁の水爆実験により被曝した事件に際して、八戸市でも反核兵器運動が盛り上がった。その際、中心人物となったのが宇山である。昭和30年8月6日に行われる予定の第一回原水爆禁止世界大会に向けて、同大会の八戸事務局局長を務める宇山は、地元から代表を送るために募金活動を行っていたところ、初三郎から『八戸市鳥瞰図』が届いた。初三郎はそのとき、この原画を運動の資金にしてほしい、との意向を示したという。しかし、宇山はこれを売ることができず、結局その原画は宇山の手元に残され<sup>(2)</sup>、そのまま長い間所蔵されることになった。宇山の死後、八戸市の画家 伊藤二子氏などの手を経て、この原画は当館所蔵となった。



八戸市鳥瞰図原画 (昭和28年 当館蔵)

\* 青森県立郷土館 主任研究主査 (〒030-0802 青森市本町二丁目8-14)



(参考) 鳥瞰折図『八戸市』(昭和29年 八戸市役所 発行) 絵図面(左)と表紙(右)

## 2 大滝温泉鳥瞰図原画 (1点) 絹本着色 42.0×76.0cm

秋田県大館市の郊外、大滝温泉の花岡旅館を描いた絵図である。これをもとにした折図が印刷され昭和28年に発行されているので、原画もその頃に制作されたものと思われる。初三郎の落款が入れているにもかかわらず、所々に鉛筆による書き込みが見られる。印刷された折図と比較すると、原画に鉛筆の書き込みのあった場所に地名が新たに加わり、あるいは地名が移動してきているので、おそらく、一応完成して原画を依頼者に示したものの、訂正すべき点が見つかったため、原画に修正の指示が書き加えられたものと考えられる。鳥瞰図製作の過程がうかがわれる資料と言える。折図の印刷にあたり、前述の修正指示のとおりに変更して描きなおした原画が存在する可能性もあるが、現時点では判然としない。



大滝温泉鳥瞰図原画(当館蔵)



中央部拡大



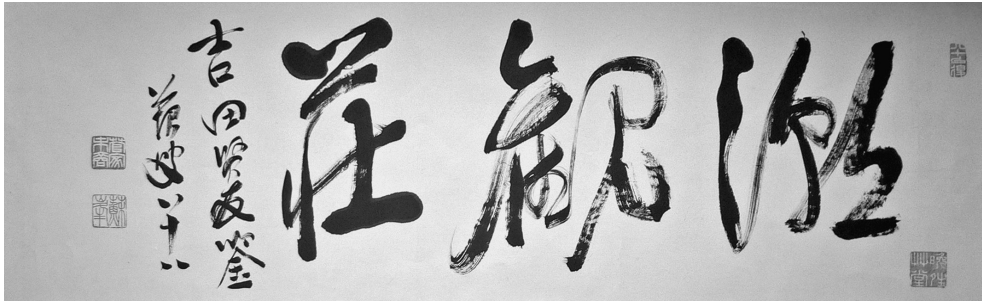
印刷折図での該当部分





(参考) 鳥瞰折図『国立公園十和田湖と大滝温泉 花岡旅館』

3 徳富蘇峰書「潮観荘」(1点) 紙本墨書 75.0×30.0cm



この書は、昭和25（1950）年に米寿を迎えた徳富蘇峰が、初三郎のために揮毫した書である。

徳富蘇峰（1863～1957）は、明治期から雑誌『国民之友』『国民新聞』など主催した言論人であり、『近世日本国民史』を書いた歴史家でもある。初三郎とのつながりは、昭和2（1927）年『歴代御陵巡拝図絵』の制作の頃からである。昭和17（1942）年、初三郎は、蘇峰の郷里からほど近い、熊本県葦北郡佐敷町（現 芦北町）に疎開し、仮画室を設けている。ここで初三郎は蘇峰の依頼に応じ、20年「阿蘇大観図」を製作している。また、初三郎は昭和25年、徳富蘇峰米寿記念パーティーに出席しており、また、彼は蘇峰との競作掛軸を88点描いている。<sup>(3)</sup>

その年の7月29日付けの手紙で、初三郎は蘇峰に「彩管報国」「観光社」という扁額の揮毫を依頼、さらにその翌々日付けの書簡で蘇峰に対して再び「潮観荘」の扁額の揮毫を依頼している。「観光社」の扁額は、初三郎の鳥瞰図の出版社である京都の観光社本社に、「彩管報国」「潮観荘」の扁額は、八戸市種差のアトリエ潮観荘に掲げる、と初三郎は手紙の中で述べている。<sup>(4)</sup>

4 吉田初三郎自筆短冊（2点）いずれも8.5×32.0cm

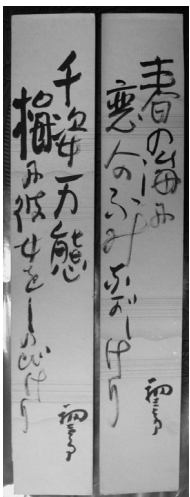
それぞれ次のような短歌が記されている。

「千姿万態 梅に彼女をしのびけり 初三郎」

「春の海に 恋人のふみがしけり 初三郎」

以上、5点の資料を本年度新たに所蔵することになった。いずれも、本県を拠点にして活動した国民的画家である吉田初三郎の製作過程や人となりをうかがわせる資料である。近年ますます注目を浴びている、吉田初三郎に関する研究に貢献することを望む。

最後に、当館の資料の購入および情報の提供等について御協力頂いた柳沢卓美氏に深く感謝を申しあげる。



註

- (1) 藤本一美「吉田初三郎の八戸市鳥瞰図類について」（『八戸市博物館研究紀要』21号 2006年）
- (2) 伊藤二子「男たちの『海光』 初三郎の死の際に鳥瞰図を托す」（『隔月刊あおもり草子』168号 2006年）
- (3) 北九州自然史・歴史博物館図録『美しき九州』（2008年）52頁、100頁、104～105頁
- (4) 徳富蘇峰記念館（神奈川県中郡二宮町）蔵の書簡による。

